

シグマ研究委員会運営委拡大幹事会議事録

日時 昭和43年12月16日(月) 13.30~17.15

場所 原研東海研 小食堂

出席者 百田、立花、岩城、飯島、中嶋、桂木、西村、五十嵐、中原

(田中)

本幹事会の議題は、シグマ委員会の今後の活動方針とその具体策の討議であるが、12月23日(月)に開催される運営委員会を前にして、その問題点の指摘と整理に主眼がおかれた。シグマ委員会の活動の基本的な考え方について主査から説明があった。

§ 各グループの問題点・活動に対する要望

I 核データ・グループ

- コード作成よりも、このプロダクションに重点をおき、評価をすすめていく段階である。
- 採り上げてほしいテーマ
 - i) fission products の方で、level spacing, strength function, Γ_γ のデータの収集、評価
 - ii) resonance integral 関係
standardize したものが無い。高速炉の F.P. と関連するので、'69年8月までにほしい。
 - iii) P-wave の strength function も compile してほしい。とくに $A \approx 100$ の近くにデータが少い。
- 核データ G の sub-group 活動は分散しすぎているか。

II 熱化グループの問題点・グループへの要望

- 組織を作りなおしてはどうか。データ収集に興味のある人々は核データ・グループへ、炉定数サイドに関心のある人々は炉定数グループへ統合するのも一つの方法である。

Ⅲ 炉定数グループの問題点・グループへの要望

- 月1回の会合の仕方は非能率的ではないか。集中作業体制をとりたい。
- 作業は原研のような機関で原案を作成し、routine 化の段階で各委員が参加する形にする方法も提案したい。
- 特定の炉型を対象とした仕事はシグマ委員会としては行なわない。
- 現時点では、シグマ委員会独自の data file を作成するよりは、例えば ENDF/B を basis として、このうちで緊急に要されるもので、interest があり、attack しやすいものから手をつけていく。
- MUFT 型炉定数作成作業結果の reprocessing
 - i) この作業結果の publication が先決だが、この手直しの可否は、予想される利用度次第である。(resonance region の処理が問題) この点について関係者による検討が必要である。
 - ii) 高速炉計画との関連で、国産炉という基本線になると当然 MUFT 型 54 群の定数が利用されるのでぜひとも再整備してほしい。
 - iii) この作業のルーチン化は、核データ研の拡充という形で具体化してはどうか。(例えば客員研究員もしくは研究嘱託制度の活用)
 - iv) 修正の方法としては、Pu データ評価作業のようなすすめ方もある。これらの作業を通して核データ G に対する具体的な要求も出てくる。
 - v) このような作業は、炉物理委との提携により「場」をつくることにもなるろう。